

3) [比喩] ほかのものにたとえる

◆「比喩」とは、述べたい事柄を、別の事柄に言い換えて(=たとえて)述べることである。何が何にたとえられているか、しっかりつかむ練習をしよう。

★ 例題3 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

もちろん、人生には多少は苦しいこともあるから、それはそれなりにやってよい。山に登るのに、汗をかくこともある。しかしぼくは、それを山頂をめざすためとばかり思うより、登山道のあれこれを、汗を流しながら楽しむほうを好む。山頂の白雲に思いをはせることはあっても、それは夢でいろどりをそえるため、やはり現在の登山道にこそ、楽しみはある。

山頂を望み、そして山頂に達することで満足するだけでは、山だっておもしろくあるまい。まして、人生は登山ではない。山頂なんて定まっていない。

(森毅『まちがったっていいじゃないか』筑摩書房)

【問い】 この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 山登りをするのは、人生を楽しむためであって、人生の目的ではない。
- 2 人生の目標に達することばかり考えず、今生きていることを楽しむほうがいい。
- 3 人生は登山とは違うのだから、それほどおもしろいことばかりではない。
- 4 登山は、山頂に達することより、登山道を楽しむことにこそ意味がある。



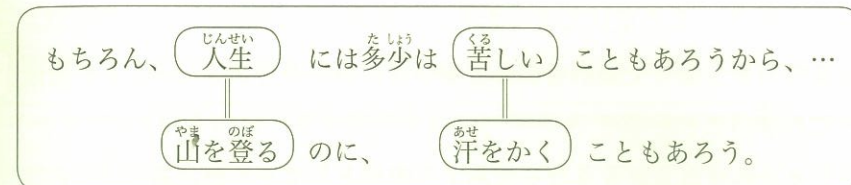
全体をつかもう

1) キーワードからテーマを推測する

初めと終わりの部分のキーワード：人生 → テーマは、人生？
 その間のキーワード：山、山頂、登山道 → テーマは、山登り？ } テーマはどちら？

2) 「比喩」に注目する

「人生」についての文と、その直後にある「山登り」の文に注目する。



二つの文は構造がほとんど同じである。ここから、「人生」を「山登り」にたとえているのではないかと推測できる。(「山登り」は「比喩」?)

3) 「山登り」の話、「人生」の話に言い換えてみる

「山登り」の話		「人生」の話
山頂をめざす	=	目標をめざす
登山道	=	生きていくこと
山頂の白雲に思いをはせる	=	目標に達したときのすばらしさを夢見る

「山登り」の話は、「人生」の話にすべて言い換えられることがわかる。また、文章の終わりに「まして、人生は山登りではない」と「人生」の話に戻っていることから、「山登り」は比喩で、テーマは「人生」だと確認できる。

4) 全体をまとめる

人生の目標に達すること(=山頂をめざす)よりも、今生きていること(=現在の登山道)にこそ楽しみはある。

選択肢と比べよう

- 1: 「山登り」をするのは「人生」を楽しむためだ、とは書かれていない。
- 2: 正解
- 3: おもしろいことばかりでないのは「山登り」も同じである。
- 4: この文章のテーマは「人生」であって「山登り」ではない。

・それまでの話と全然関係のない言葉が突然出て来たら、「比喩」かもしれないので、注意しよう。

練習11 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

物体は激しく動けば、それだけ摩擦が大きくなる。人間だって、激しく動く^{はた}と熱を持つのだ。端から見れば、輝いている人間のことが、きっと羨ましく見えるのだろう。

だけど、輝いている本人は熱くてたまらないのだ。

星だって、何千光年という遠くの地球から見れば、美しく輝く存在だ。

「いいなあ、あの星みたいに輝きたい」

人はそう言うかもしれないけれど、その星はたまったもんじゃ^{うらや}ない。何億度という熱で燃えている。しかも、燃え尽きるまで、そうやって輝いてなくちゃいけない。

これは真面目に、けっこう辛いことなのだ。

カッコつけているわけじゃない。自分がそうなってみて、実感としてそう感じる。

(北野武『全思考』幻冬舎)

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 輝いて見える星のように、人もいずれは燃え尽きてしまう運命にある。
- 2 人は成功した人間を羨むが、本人は辛く苦しい思いをし続けている。
- 3 人は星のように輝いて初めて、生きることへの情熱が実感できる。
- 4 人間も物体と同じで、激しい運動をすれば摩擦で体が熱くなる。

練習12 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

鼻は口の上に建てられた門衛小屋のようなものである。生命の親の大事な消化器の中へ侵入しようとするものをいちいち戸口で点検し、そうして少しでも胡散臭い^{うさんくさい}(注1)ものは、即座に嗅ぎつけて拒絶するのである。

人間の文化が進むにしたがって、この門衛の肝心な役目はどうかすると忘れられ勝ちで、ただ小屋の建築の見てくれ^{注2}の美観だけが問題になるようであるが、それでもまだこの門衛の失職する心配は当分なさそうである。感官^{注3}を無視する科学者も、時には匂いで物質を識別する。

(寺田寅彦「匂いの追憶」『椿の花に宇宙を見る』夏目書房)

(注1) 胡散臭い：なんとなく怪しい (注2) 見てくれ：外見 (注3) 感官：感覚器官

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 匂いでものを識別するという鼻の役割は、これからもなくなるだろう。
- 2 現代人は、鼻の本来の役割より、形の美しさばかりを気にしている。
- 3 鼻の役割は、体の中に悪いものを入れないようにするということである。
- 4 科学者たちと同じように、我々も鼻の役割を大切にすべきである。

練習13 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

「くつろぐ」というのは、その語感といい、平仮名で書いたときののびやかさといい、私の好きな言葉の一つである。もちろん、くつろぐ状態そのものも、大好き。

そして、私がいちばん手っとり早くくつろげるのは、一時間ほどで行ける箱根^{はこね}の温泉へ浸ることであった。

常宿^{じょうやど}にしているPホテルで、緑濃い風景を眺め、湯にのびのびと手足をのばせば、日ごろはりつめていたものが、一気にゆるむというか、融けて、流れて、去って行く。

ところが、この一年、それができなくなった。

箱根へは、いつも家内と一緒に出かけ^{あだ}ていたのが仇^{あだ}になって(注1)、目に入ったとたん、ホテルの建物が物を言う。

ドアも、ロビーも、エレベーターも、廊下も、もちろん、いつもの部屋も。

そのドアも、テーブルも、ソファーも、すべてが語り出す。家内のことを、その家内が居なくなったことを。

(城山三郎『この命、何をあくせく』講談社)

(注1) 仇になる：かえって悪い結果になる

問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 くつろぐなら箱根が一番だが、最近は妻が留守がちで一緒に行けなくなった。
- 2 くつろぐなら箱根が一番だったが、最近はホテルがうるさくてくつろげない。
- 3 箱根に一人で行くと、いつも妻とくつろいでいた場所が新鮮に思われて意外である。
- 4 箱根に行くと何を見ても妻を思い出すため、今はもう箱根ではくつろげない。



練習 14 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

素晴らしい短編小説に出会うと、自分だけの宝物にしたくなる。小さいけれどしっかりした造りの宝石箱にしまい、他の誰も知らない場所に隠しておく。

長編小説だとそうはいかない。それは海や川のように世界に横たわっているもので、どこかにしまっておけるはずもなく、大勢の人がいつでも自由に眺めたり泳いだり漂ったりできる。

短編小説との関係はもう少し秘密めいているように思う。読書の途中、心打たれるとしばしば私は「何なんだ、これは……」と、感動の声を上げるのだが、短編の場合は長編に比べてその声の調子がかすれ気味になる。威勢よく机を叩いて叫ぶのではなく、誰かに盗み聞きされないよう用心しながら、自分一人に向かってささやいている。読み終わるとまた宝石箱の中に納め、鍵を掛け、裏庭の片隅にひっそりと湧き出ている泉の底に沈める。

何かの都合で立ち上がれないくらいに疲れ果ててしまった時、海や川のほとりまではとてもたどり着けそうにない時、自分の庭に隠しておいた宝物が役に立つ。泉に手を浸し、箱をすくい上げ、掌にのるほどの小さな世界にも、ちゃんと人間の営みが満ちあふれていることを確かめれば、もうそれだけで安心だ。自分はただ一人荒野に取り残されているのではなく、誰かの温もりに守られているのだと実感できる。

(小川洋子『博士の本棚』新潮社)

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 素晴らしい短編小説は本棚に並べておくよりも、宝石箱に入れて隠しておいたほうがいい。
- 2 短編小説より長編小説のほうが数多くの人々に読まれ、価値が認められている。
- 3 素晴らしい短編小説は大切にとっておきたい存在で、つらい時に読み返すと安心できる。
- 4 筆者を守ってくれる素晴らしい短編小説の名前は、誰にも教えないと決めている。

コラム 2 あなたの意見・筆者の意見

試験で選択肢を選ぶ際、気をつけなければいけないことの一つに「自分の意見を入れない」ということがあります。例を挙げて考えてみましょう。

例えば、「人生」がテーマの問題があるとします。

問い 筆者がこの文章で最も言いたいことは何か。

- 1 年を取ってから困らないように、若いうちに苦労しておくべきだ。
- 2 年を取ってからではできないので、若いうちにいろいろな経験をしておくべきだ。
- 3 年を取ってからのことは、若いうちにはあまりわからない。
- 4 年を取ってからのことを、若いうちに悩んでもしかたがない。

Aさんは考えます。「若いうちががんばって働かないと、後で絶対困る。1番だ。」

Bさんは考えます。「若いときの経験は何より大切だ。答えは2番。」

そして、正解を見ると…4番でした。筆者の書いた文章は「老後の心配ばかりしていてもしかたがない。だって明日死んでしまうかもしれないではないか。将来のことなんてどうせわからないのだ。」という内容だったのです。

AさんもBさんもきちんと文章を読み、内容は理解していたはずですが、しかし、選択肢を選ぶときになって、「筆者の意見」ではなく、つい「自分の意見」を選んでしまったのです。これは実際によくある間違いパターンの一つです。

能力試験のようなテストでは、「自分の意見」を問われることはありません。問われるのは「文章に書かれている内容」か「筆者の意見」だけなので気をつけましょう。

もちろん、その内容や筆者の意見についてどう考えるかは、読み手の自由です。自分の考えが生まれたら、周りの人と話し合ってみましょう。興味があれば、その筆者の本を読んでみるのもいいでしょう。ただし、くれぐれも試験の後で。

4) [疑問提示文] 疑問文を使って論点を提示する

◆読み手に「なぜか」などと問いかける文(疑問提示文)には、多くの場合、文章の論点(筆者が何を述べたいか)が示されている。「疑問提示文」に注目して、論点をつかむ練習をしよう。

★例題4 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

明治二十年代は、日本の近代文学史上、最初の女性作家の時代でした。(中略)そのような歴史の流れのなかで、明治時代、とくに二十年代を一つの画期として、女性作家たちが次々と登場するようになったのはなぜでしょうか。

一つには、西洋思想の影響によって、女性たちをとりまく状況が変化したことがあげられます。明治初期を代表する啓蒙的(注1)な知識人たち—福沢諭吉・中村正直・森有礼ら—は、西洋思想の影響を受け、女性たちの社会的な覚醒(注2)や地位向上が日本の近代化にとって重要な意義を持つことを認識し、雑誌その他のメディアを使って、女性の地位向上の必要性を説きました。新時代の指導的立場を自認する人々が開明的な女性論を展開していくなか、女性の社会進出を受けいれる精神的な土壌が、不十分ではありましたが用意されつつありました。

そして、何より強調すべきは、女子教育の成立です。明治の女性作家の第一世代は、その多くが女学校での新しい教育を受けた人々でした。明治十年代を中心とする多くの女学校の創立は、それまでの日本には存在しなかった〈女学生〉という新しい層を生み出しました。女学生の絶対数が増加すれば、彼女たちを対象とした雑誌も次々と刊行されるようになります。女性たち自身の内面的な覚醒は、外的・内的条件の両面から促されていきました。このような中で、自ら語る主体であろうとする女性たちが文壇に登場し始めたのです。

(菅聡子ほか『明治 大正 昭和 に生きた女性作家たち—木村曙 樋口一葉 金子みすゞ

尾崎翠 野溝七生子 円地文子』お茶の水学術事業会)

(注1) 啓蒙的：人々に新しい知識を与え教えること

(注2) 覚醒：目を覚ますこと

問い この文章の内容として最も適切なものはどれか。

- 1 明治二十年代になって初めて女性が文壇に登場した結果、社会における女性の地位が向上した。
- 2 明治二十年代に高い教育を受けた女性たちは、女性の地位を向上させる必要があると自ら説くようになった。
- 3 明治二十年代に女性作家が登場したのは、女性の社会進出を許す土壌と、女子教育の成立があったからである。



- 4 女性たちが次々と雑誌を刊行した明治二十年代は、日本の近代文学史上、最初の女性作家の時代と呼ばれている。

全体をつかもう

1) キーワードからテーマを推測する

明治、女性、作家 → テーマは、明治の女性作家?

2) 「疑問提示文」に注目する 「なぜ」

疑問提示文 …明治時代、とくに二十年代を一つの画期として、女性作家たちが次々と登場するようになったのは「なぜ」でしょうか。

3) 「なぜ」の答えとなる部分を中心に内容を読み取る

第2段落 一つには、西洋思想の影響によって、女性たちをとりまく状況が変化したことがあげられます。

…女性の社会進出を受けいれる精神的な土壌が…用意され…

第3段落 そして、何より強調すべきは、女子教育の成立です。…

このような中で、自ら語る主体であろうとする女性たちが文壇に登場し始めたのです。

4) 全体をまとめる

明治二十年代に日本で女性作家が次々と登場したのは、西洋思想の影響で女性が社会進出できる土壌ができてきたこと、また、女子教育が成立していたことが要因である。

選択肢と比べよう

- 1：女性の地位が向上したのは、女性が文壇に登場したからではない。
- 2：女性の地位向上の必要性を説いたのは、明治初期の知識人である。
- 3：正解
- 4：雑誌を発行したのが女性だとは書かれていない。

【疑問提示文】

練習 15 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

では、いったい、装飾という面から見た、人間と動物との決定的な違いは、どういう点にあるのであろうか。

このことについて、おもしろい意見を述べている人は、名高い『衣装論』を書いたエリック・ギルである。ギルの意見によると、人間と動物との違いは、人間が服を着ている点にあるのではなくて、むしろ人間が服を脱ぐことができる点にある、というのだ。

動物にも、立派な服を着ている種族は多いのだけれども、人間が人間たる所以^{ゆえん}(注1)のものは、自分の意志で、気の向くままに、服を着たり脱いだりすることができる自由、自分の好みに合わなければ、さっさと服を脱ぎ替える自由をもっている点にある。つまり、人間は、自分を満足させるために服を着るのであって、動物には、そういう自由はない、という意味なのである。

なるほど、そういわれてみれば、その通りにちががなく、これは当たり前すぎるほど当たりの話ではないか。ただ、「服を脱ぐ」という点にポイントを置いたところがおもしろく、こういう意見を、パラドックス(逆説)というのであろう。

着物ばかりではない。人間は室内装飾においても、住宅においても、アクセサリーにおいても、また髪型や化粧においても、自分の好みに合わせて、自由にこれを採用したり捨てたりすることができる。それだからまた楽しいのだ。異性との交友の場合だって、その通りだといったら叱られるだろうか。

(澁澤龍彦『夢のある部屋』河出書房新社)

(注1) 所以: わけ、理由

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 動物の中にも、立派な装飾をもっている種族が数多くいる。
- 2 人は「服を脱ぐ」ものだというのは、パラドックス的な見方である。
- 3 人間が動物と違うのは、装飾を自由に取捨選択できることである。
- 4 異性との交友まで装飾だと捉える見方は、一般的とは言えない。

【疑問提示文】

練習 16 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

一般に自由はどのように捉えられているだろう？

言葉の使われ方を観察すると、たとえば、自由行動、自由時間という場合、決められたスケジュールがない状態を示している。多くの人は「自由」を、「暇な」とか「することがない」状態としてイメージしているかもしれない。

必ずしも、「自由」は素晴らしい意味には使われていない。仕事や勉強に追われていると、ついゆっくりと休みたくなる。少くくは怠けたくなる。「一日中寝ていたい」というような欲求が、「自由」から連想される個人的な希望である場合が多い。

はたして、これが本当の自由だろうか？

もちろん「支配からの解放」であることにはまちがいない。ただし、多くの人にとっては解放されること自体が、自由の価値になっている。解放されたことで何ができるのか、といった「自由の活用」へは考えが及んでいないように見える。

(森博嗣『自由をつくる 自在に生きる』集英社)

問い この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 自由は価値あるものと捉えられているが、実は、必ずしも良いものとは限らない。
- 2 自由というのは、決められたスケジュールから解放された状態のことである。
- 3 人は自由にあこがれるが、実際に自由になると、何もしたくなくなってしまう。
- 4 多くの人は自由を解放としか捉えていないが、解放されてどうするかが重要である。

【疑問提示文】

練習17 問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

たとえば、タバコは体に悪いからもうやめよう決心しても、なかなかやめられなかったり、ダイエットを決意して間食はやめよう決めても、目の前にケーキを出されるとつい食べてしまったりするのはなぜなのか。

多くの人の答えは、「意志が弱い」からというものである。また、英会話を習得するために、毎日テレビの英語番組を見ようと決めたのに3日もつづかない。「どうせやる気がない」からとか「本気じゃない」からだとか考える。また、人前ではっきり自分の意見を言えず、われながらじれったいと思う人もいる。なぜだろう。「引っ込み思案^(注1)」だから、あるいは「気が小さい」からだろうか？

このように、「意志の弱さ」「やる気のなさ」「引っ込み思案な性格」というものを、行動の原因として考える人は多い。しかし、意志とか、やる気とか、性格というのはいったい何なのだろう。

そもそも、自分も含めて、ある人が行儀がいいとか悪いとか、意志が強いとか弱いとか、やる気があるとかないとか、引っ込み思案なのか度胸がある^(注2)のか、ということがなぜわかるのかを考えてみたい。禁煙を決意しながらタバコに手が伸びてしまうのは、意志が弱いからだ。では、なぜ、その人の意志は弱いといえるのだろうか。それは、タバコをやめようと思っているのにやめられないからである。どこか変ではないか。

おかしい理由は2つある。タバコをやめられないことと、意志が弱いことが循環論に陥っていることが1つ。もう1つは、意志が弱いというのは、タバコを吸う原因ではなく、禁煙を決意したのにタバコを吸っていることを別の言葉で言い換えたにすぎないのである。

(杉山尚子『行動分析学入門』集英社)

(注1) 引っ込み思案：積極的に何かをするのが苦手な性格

(注2) 度胸がある：物事を恐れない強い精神力がある

【問い】この文章で筆者が最も言いたいことは何か。

- 1 多くの人は、意志ややる気や性格が人の行動に影響を与えている。
- 2 ある行動の原因を、意志や意欲や性格といったものに求めるのはおかしい。
- 3 意志が弱いというのは、つまり、禁煙できないことの言い換えである。
- 4 なぜ人が悪癖をやめられないのかは、だれも説明することができない。

コラム3 疑問文に注意

「人はなぜ恋をするのだろうか」

文章の中でこんな疑問文に出会ったら、論点を見つける大きなヒントです。多くの場合、この後に続く文章で、筆者は「なぜ恋をするのか」に対する答えを述べる形で、自分の論を進めていきます。つまり「疑問提示文」(→p.26)があった場合は、その答えを追っていくことが大切です。

では、疑問文の答えが本文の中に見つからないときは、どう考えたらいいのでしょうか。実は、疑問文の形自体で「(いいえ)…ではない」という意味を表す場合があります。例えば、「それは本当に恋なのだろうか」という文で、「それは恋ではない」という筆者の主張を表す場合です。このように、形は疑問文でも実際には「否定の答え」を主張する表現を「反語」と呼びます。「本当にそうか(=そうではない)」、「はたして必要なか(=必要ではない)」などが代表的な例です。

ただし、この形がいつも反語とは限りません。「それは本当に恋なのだろうか」に続く文で筆者がいろいろな考えを述べ、「これも恋なのだ」という肯定の結論に至る場合もありますから、注意が必要です。疑問文を見たら、続く文をよく読んで、反語かどうかを判断しましょう。